



関中央ロータリークラブ

2019-2020 WEEKLY REPORT

例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：岐阜県関市池尻 91-2
 事務局：関市西本郷通 5-2-53 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278
 会長 吉田和也 副会長 高井良祐 幹事 土屋敏幸 クラブ会報委員長 長谷川修

2019~2020年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ

「One for all, All for one.

協力しあい成長するロータリー！」



4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第1993回例会 2019年10月21日(月)

「東海北陸道グループクラブ対抗親睦ゴルフ会」

ホスト：関中央RC 担当：親睦活動委員会 場所：グリーンヒル関ゴルフ倶楽部

前例会の記録 第1992回 2019年10月17日(木)
 会員卓話 加納淳至会員 担当 職業奉仕委員会

**ロータリーソング「我等の生業」斉唱

*お客様の紹介

(高井会員の奥様) 高井温都子様

(加納会員の奥様) 加納 啓視様

*会長あいさつ 吉田和也会長

まずもって、12日から13日にかけて通過した台風19号によって、東海、関東、東北地方に於いて甚大な被害が出てしまいました。多数のお亡くなりになられた方や、被災された方々に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。クラブといたしましても、被災地区にご支援をさせて頂かなければならないと思いますので、皆様ご理解の程宜しくお願い致します。



さて本日は、会員卓話という事で、加納淳至会員

による「ものづくり」というテーマで卓話を頂きます。加納さんが普段どんなことに、ポリシーや情熱を傾けて「ものづくり」に向かっておられるか大変興味深いお話かと思っておりますので、楽しみにしております。

又、本日のお客様をご紹介させていただきます。高井会員の奥様 高井温都子様と、加納会員の奥様 加納 啓視様です。本日は、ようこそいらっしゃいました。加納さんにおかれましては、頼もしいお二方が、応援に駆けつけて頂きまして、大変心強いと思います。どうか、卓話の方宜しくお願い致します。

さて、先日の7日の月曜日、今度の21日の東海北陸道グループ親睦ゴルフ会の下見と打ち合わせを兼ねて、有志の皆様と私を含め6名で練習ラウンドに行ってみりました。グリーンヒルゴルフ場の打ってはいけない所や、潜んでいる罠やグリーンをしっかりと、学習し、グリーンヒルのゴルフ場を攻略して、本番では、良いスコアで回れるようにといった

青写真を描いておりますが、そんなに上手くいくかどうかは疑問です。ラウンドの日は、大変涼しい気候の中、和気あいあいと楽しいラウンドをして、プレー終了後には、味の孫六さんにて、大変愉快なお話をしながら、おいしいお酒を頂いて、非常に楽しい1日を過ごさせて頂きました。今後も、クラブ内でこのようなコンペを定期的で開催することができれば、皆様との親睦も深まり良いのではないかと思います。特に新入会員の方や入会候補者の方をお誘いして行えば良いと思っていますので是非企画して頂きたいと思っております。ともあれ、21日ご参加の皆様には、あまりスコアを気にすることなく、気持ちの良いゴルフをして頂ければと思っております。又、当日、ゴルフに参加されず受付等の対応を頂きます会員様や、事務局様には、本当にお手数をお掛け致しますが、宜しく願い申し上げますと共に感謝申し上げます。この度の、親睦ゴルフ会とチャリティの成功に向けて関中央クラブ一丸となって向かって参りましょう。

さて、話は変わりますが、最近キンモクセイの甘い良い香りが漂ってきます。あまり顔に似合わない事を申ししておりますが、私は毎年この花の香を嗅ぐと、何か物悲しい、やり残したことがあるような感傷に浸ります。それは、仕事柄かもしれませんが、暑くて大変ですが、日も長く仕事等も1日目一杯で何かと物事がはかどる積極的な夏の時期から、12月22日の冬至に向かって、日照時間が日に日に短くなり、仕事や屋外で行う活動が何かと時間的に制限され、やりたいけどやれないという、もどかしい様な、何かとあきらめなければ仕方がないという消極的な状況になるからだろうと思っております。キンモクセイの花言葉は一般的には、皆様の奥様のように、香りのわりに小さく控えめな花と、上品な香りから「謙遜」「気高い」「真実」だそうです。又、そのほかにも、「初恋」「誘惑」「陶醉」という花言葉が存在するそうです。「誘惑」「陶醉」といった、花言葉の由来は、まるで誰かを誘惑しているような、キンモクセイが放つ独特の甘い、人を陶醉する様な香りにあるようです。これから秋の夜長となりますので、どうか奥様とひざを突き合わせ向かい合われて、キンモ

クセイの甘い香りをお楽しみになられてはいかがでしょうか。

*会員卓話 加納淳至会員



僕の会社は、自分で3代目になります。祖父が1965年に創業し、その後、父が後を継ぎましたが、代替わりをして半年たたないう

ちに病気のために急逝しました。その頃、自分は25歳で他の会社に就職していましたが、祖父の亡くなる少し前に退職をして家業の手伝いに入りました。仕事の事は、これから順番に教えるからと言っていた父が亡くなり、26歳にして父の後を継いで会社の代表としてやっていくことになりました。父が亡くなる前に、「もっといろんなことを教えてやりたかった。」と言われました。その言葉の意味と、重責を担うということについて僕なりにずっと考えながら、これまでやってきました。

当時から、地元の事業所さんからJCやライオンズクラブなどのお誘いをいただいたことも何度かありましたが、その頃は、自由に外へ出ることが出来なかったのです。会社には、専務と常務として、父の第二人が在籍していましたが、他の従業員さんたちと、ただ今やる事だけを一生懸命にこなすという毎日でした。それから、20年以上がたちますが、ロータリークラブのお話をいただいて、今こうして関中央ロータリーの仲間に入れていただき、諸先輩方には日頃よりご指導をいただき、とても勉強になっています。ありがとうございます。この場をお借りしまして、お声がけをいただきました、副会長の高井良祐さん、奥様温都子さまに心より御礼を伝えたいと思います。僕に良いきっかけを与えてくださり、本当にありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、26歳からのこれまでの約24年間、ただひたすらに仕事漬けというわけでもなく、やはり息抜きが何より大切だと思いますので、僕の趣味の話をしたいと思います。20代から30代後半までは大型オートバイに乗って出かけることが週末のおたのしみとなっていました。オートバイは、日ごろから手入れをしたり、装飾を試みたり、遠出をするにあたって

は革ジャンに革パンツをはき、革のブーツを履いて完全防備です。当時は、今のように予告なしのゲリラ豪雨のようなこともありませんでしたから、天気が良いければ時間を気にせず、出かけたりしました。

あと、もう一つの趣味は父に教わった釣りです。主に溪流ですが、釣りに出るときは朝早くから、と言っても2時半とか、まだ世の中は夜ですね。(笑)夜中2時半ごろから釣り場を目指して出発します。岐阜は清流といわれる川が多くありますから、郡上やおとりダムのあたりまで車で出かけていきます。川の水の流れる音と、林の木々が風に揺れる音を聞きながら、釣り糸を垂れていると、心は無の状態となり自然の中のほんの一部でしかない、小さな自分にかえることが出来ます。それは僕にとって、一番のリフレッシュにもなり、釣った魚は家族や友人、そして我が家の愛犬が大変な喜びようで食べてくれますので、自分は楽しく周りも喜んでくれる、本当にいい趣味だなあと考えております。・・・がいかげでしょうか。(笑)もし、川で釣りをされる方がいらっしやいましたら、是非お声をかけてください。家族のために、ただ家族のために、たくさんの釣果をめざして是非一緒に楽しみたいと思います。

そして、一番最近、僕の趣味となったのが山登りです。昨年になりますが、8月の4~6日の3日間富士山へ、初登山・初登頂してまいりました。初日4日には、午後に富士宮に入り、登山に向けての安全祈願に富士宮浅間大社へ参拝しました。御祈祷を受けてから、神社でまだ何も焼き印の押されていないまっさらな金剛杖を分けていただきます。のちにこの杖が、僕にとっての初登山の相棒となります。夕食の時、一緒に来た登山経験者は、明日に備えて食事はなるべく控えるといい、酒を飲まず、主食も少なめ、なるべく体を軽くしたいということでした。霊峰富士に上らせてもらうにはそこまでしないとイケないのかとおどろきましたが、僕は、腹が減っては戦が出来ぬタイプですから、いつも通りに酒を飲み、居酒屋メニューをしっかり食べて、仕上げの富士宮焼きそばまで完食して、おなかいっぱいであまりの就寝となりました。登山当日の朝、みんなでそろって朝食をたべました。やはり他のメンバーは、食

事は控えめ、僕はおいしく腹いっぱいいただいて、さあ出発です。登山口まで移動すると、では次は山小屋で会おう。山頂で会おうと、約束をしてそれぞれが自分のペースで登り始めます。僕は、初めてなので、どのくらいのペースでいけばいいのかがよくわからず、でも下から山頂の方を見上げるとすごくやる気がわいてきて、早くいかなければ、どんどん行けるところまで、とにかく行こう。との思いで一気に宿をとった八合目、標高3200メートルの白雲荘に到着することができました。山を登ることは、人生に例えられることがあります。登山口までは友人たちと一緒にですが、そこからはそれぞれのペースで進んでいきます。途中に出会った知らない者同士が、声を掛け合いながら、一步一步、自分のペースで進みます。休憩所で一緒になると、だれかれとは無く気さくに話をして、山頂を目指す。この山を、登りきるという共通の目標を持った者同士が一つの方向へ向かってともに、歩を進めていくのです。僕は、いままでの自分を振り返りながら足元を確かめて歩いていきました。

山小屋の夜は早く、5時夕食です。小さなコップ1杯のお茶と、これまた小さなカレーライス。酸素が薄いせいもあるのか体はとても疲れています。風呂もなく、歯も磨けず、顔も洗えません。山小屋では、パンツを替えるのもどっちを向いて脱いだらいいのかと思うほどぎっしりの人、ヒトです。毎日、あたりまえにしていることが、出来ない状況です。寝る時間になっても、幅50センチほどのスペースに大人が一人。昼一昼に、2人から3人が寝る計算で、寝返りをうつ事もできません。貸し出しのシュラフはまるで芋虫のようで、大きめな僕は体がはみだし、すぐ近くに寝ているはずの中国人グループの夜を徹しての酒盛りと話声で、長いようで短い夜は更けていきました。夜中になると、僕のすぐ隣に寝ていた子供が、お父さんに向かって「おなかがすいてねむれない」といいだしました。うとうとしていたのですが、遭難した時用にと、うちの奥様に持たされていたキャラメルを半分分けてあげました。薄暗がりの中、キャラメルを受け取ると、にっこり笑った表情がみえて、将来、キャラメルをくれたおじさんとし

てこの子の記憶に残るのかな、なんて思いました。

夜中1時起床。1時半には山小屋を出て、いよいよ山頂に向かいます。8合目から山頂までは狭い登山道を、一列になって進みます。それぞれが明かりを頭につけて、点々と明かりが山の方へとつながって続いているのを見た時、僕の中でもう一度スイッチが入ったように思います。

いよいよ山頂だ！早く山頂へあがりたい！

そんな気持ちを胸に、登っていくと、山頂は、ご来光待ちの人たちでいっぱいです。当たりは真っ暗で、山頂の気温は7度から8度。周りに遮るものが何もない為、強風で体感温度はもっと低かったと思います。真冬並みの寒さでした。自宅では一年中、毛布一枚あれば寒さしらずの、掛布団のいらない男として有名な僕も、じーっとしていることでだんだんと体が冷えてくるのを感じました。知らない者同士、寄り集まって身を寄せて、固まって雑談をしながら体温が奪われるのを防いでいました。登山口で別れた友人たちとは、山頂でやっと合流出来、それぞれに上ってきた道中どうだったのかを報告し合い、ほんの一日だけのことなのに、久しぶりに出会ったような、喜びの再会となりました。冷えるなあと言っていたところ、いよいよだぞ～と誰かの声がかかり、ついにご来光を迎えました。夜の闇に、太陽の光の差す瞬間です。光の届く速度は、1秒に30万キロと言われてます。太陽の光が地球に届くまでにかかる時間は、約8分19秒ですから、僕たちが見た太陽の光はおよそ8分前の光ということになるわけですが、太陽の光があまねく僕らに降り注いでいるのだということを初めて体感しました。さっきまで冷えていた、頬や鼻先に、太陽が当たると、ものすごいエネルギーを感じます。すぐに温かさを感じました。お天道様とはよく言ったものだなと、まさに太陽が天空を通過する道を、この目で見ることができました。あれほど、日が差してくることを待ったことはなかったし、日本最高峰3776メートルの山頂にいましたので、2018年8月5日の太陽の光を、他の皆様よりも一足先に浴びることができ、太陽のエネルギーを感じることができましたし、それは何か大きな力をいただいたような気がしました。大自然の中に

いると、小さな自分を感じ、日ごろ抱えている小さな悩みや問題もいかに些細でちっぽけなことかと思わされます。日本人だけでなく、今や世界中からの登山家たちが富士山にみせられ、なぜその頂を目指すのか、その理由を一つ感じる事ができました。ご来光のあと、山頂にある、浅間大社山頂奥宮で朝一番の御祈禱を受け、神職のかたがたのはからいで参拝後の朝食をご一緒させていただく事となりました。みなさんご存じかと思いますが、山頂では水一滴が貴重です。食料一つを運ぶのにも労を要します。そこで皆さんと一緒にいただいた、お味噌汁、白いご飯、あたたかいお茶が本当に温かく、ひとくちほおぼると、涙が出てきました。あれほどにありがたく、そしておいしい朝ご飯は、いつもご飯を作ってくれる奥さんには申し訳ないですが、今までで一番といっても過言ではありません。

1. 普段当たり前前になっていることの多くは、決して当たり前ではないということ
2. 自分の脚で、一歩ずつ進んでいくということ。そしてどんな高い山も、すべては一歩から始まるということ
3. その道中で出会い、時を共に過ごす仲間は互いを支え、ともに楽しむ、たいせつな人たちであるということ

この3つを、今回の富士登山を通して改めて感じました。僕は、ロータリークラブの活動には、なかなか参加できなかつたりしていますが、クラブの皆様に対しても同様に、大切に思っています。山を下り、富士宮浅間大社へお礼参りをしてから、2日分のアカを流しに銭湯に向かい、やはり仕上げの富士宮焼きそばを食べて帰路につきました。帰りの新幹線羽島駅では、奥様が迎えにきてくれていました。改札口の前で待っているところへ、焼き印いっぱいの金剛杖を持って現れた僕を見て、「結婚以来、十数年のうちで一番いい顔をしているね！」とあって、とても喜んでくれました。そして、すぐに鏡を差し出して、「今の顔をしっかり見といた方がいい。見ろ、見ろ、」と言ってききませんでした。達成感と充実感なのか、満足げな顔をしていたのか、よくわかりませんが、私事ですが、10日ほど前に、よわい50をつい

に迎えてしまいました。さあ今の僕は、どんな顔をしているのでしょうか。後ほど改めてじっくりと鏡を見てみたいと思います。

自然の中で、過ごすことによって、人は本来の姿に戻れるという言い方をされることがありますが僕の場合はこうして自然の中に身を置くと、リラックスでき、安らぎを感じる事が出来ます。そして、日常生活の中で、忘れてしまいがちな一見するとあたりまえと思えるようなことが、決して当たり前ではなく、すべて感謝に値することなのだという事を思い出させてくれます。忙しさのせいで、強い言い方をしたり、頭ごなしに言いつけてしまったことに気づき改め、もう一度、やさしい態度で物事に取り組む。気持ちよく仕事に向かう。周りを大切にする。そんな一番大切な事を思い出す、大事な時間となっているのです。諸先輩方が、四季を通じてゴルフを楽しまれるのもきっと同じだと思っています。太陽の光をいっぱい浴び、風を感じ、風を読み、芝の絨毯の上を闊歩し、道具に頼らず日ごろの成果！とフルスイング！！僕はこれまでも、一步一步とやってきましたので、先輩方のように思い切りよくフルスイングはなかなか出ませんが、これからも皆様方のご指導・ご鞭撻をちょうだいしながら、学ばせていただきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、世の中タピオカがブームですが、過去にも2回ブームになっています。過去2回のブームが終わって3か月後に大変な出来事がありました。分かる方みえますでしょうか？

1回目が、オイルショックです。

2回目は、リーマンショックです。

今回の3回目は何も起こらなければ良いのですが、皆様も、少し気に留めてみてはいかがでしょうか。

本日は、ご清聴ありがとうございました。

*出席委員会

会員数34名、本日の出席19名です。

*ニコボックス委員会

・会長・副会長・幹事

加納淳至会員、卓話楽しみにしています。がんばってください。宜しくお願いします。

・高井良祐君

加納淳至君、卓話よろしく申し上げます。家内が、加納君の卓話を聞きたいとやって来ました。おじゃまでしょうが、よろしく申し上げます。

・後藤政之君

先日は家内の誕生日に虎屋さんのおいしいお菓子をありがとうございました。

19名のご投函ありがとうございました。

*幹事報告

・RID2790 地区から、2019年9月台風15号災害へのご支援について（義援金のお願い）

九州北部豪雨災害義援金と同額を送金します。

・第7回日台ロータリー親善会議福岡大会のご案内

<次例会の案内>

第1994回 2019年11月2日（土）

長良川流域連携クリーン作戦 午前10時集合

場所：関観光ホテル前の河原

担当：社会奉仕・環境保全委員会